

A パート

人間の尊厳と自立 〈領域：人間と社会〉

問題 1

▶ 正答 5

出題のねらい

利用者の生活の質（QOL）の維持・向上に向けた支援は、人間が誰でも望む「自分らしく幸せに生きたい、充実した生活を送りたい」という願いを感受し、利用者が希望する生活像を重視して個別支援につなげていく関わりである。

解説

- 1 × 施設に入所した場合など、新しい環境に適応できるように支援することは重要だが、利用者のライフスタイルや希望を尊重した支援でなければ、生活の質（QOL）の維持・向上に向けた支援とはいえない。
- 2 × 身体的な健康状態を考慮することは重要だが、生活の質（QOL）の維持・向上に向けた支援として最も適切な支援とはいえない。生活を捉える視点として、世界保健機関（WHO）の憲章における「健康」の定義や、ICF（International Classification of Functioning, Disability and Health：国際生活機能分類）が参考になる。
- 3 × 生活の主体は利用者である。介護福祉職は、まず利用者の意思を尊重し、専門性を持って利用者とともに生活課題や介護の内容を検討することが重要である。この姿勢が、利用者の生活の質（QOL）の維持・向上に向けた支援につながる。
- 4 × 介護実践上、心身機能の維持・向上を目指すことは重要だが、利用者の心情や意思に基づかなければ、生活の質（QOL）の維持・向上に向けた支援とはいえない。
- 5 ○ これまでの解説から、この選択肢が最も適切である。

問題 2

▶ 正答 4

出題のねらい

慢性閉塞性肺疾患（まんせいはいそくせいはいしつかん chronic obstructive pulmonary disease：COPD）では、息切れや呼吸困難の症状が出る。呼吸困難を経験した人の中には、「また息ができなくなるのではないか」と恐怖心を持って暮らしている人もいる。Aさんも複雑な心境で過ごしていると思われる。介護福祉職として、Aさんがつぶやいた「湯舟につかりたい」をはじめとする意思を最大限に尊重し、表出された部分だけではなく、生活、人生をどのようにしていきたいのかを引き出し、Aさんを中心として、家族、医療職、リハビリテーション職とともに検討すべきである。

解説

- 1 × 同じ病気の人個人の個人差を考慮せずに、安心や安全のみを優先してシャワー浴を勧